
水の賢者と風の国

4423

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水の賢者と風の国

【Nコード】

N8160Z

【作者名】

4423

【あらすじ】

フォア大陸、いくつもの勢力が国がたがいにくつかりあう欲望うずまく大陸…。この大陸で主人公たちは国の存続のためまたは自分自身のために奮闘する。

プロローグ

とある所にフォア大陸という大陸があった。そしてその上空にはバーネット浮遊列島が何か文句でも？

というように浮かんでいた。その中にある島のひとつ、バーネット王国需要都市、国立学園都市。ここに

通えるものは魔法使い・・・つまり貴族の子弟のみ。それ以外いるといえば教師、平民の使用人や衛兵で

いどしかない。ここの主な役割は簡単に言うと国家の重要な戦力である貴族たちの教育だ。現在の時刻

は深夜2時でありこの時間帯に騒ぐ勇気のあるやつはいない。衛兵さんたちは眠い目をこすらせ、使用人

さんたちや教師たちは明日の用意をし、学生たちは夢を見ているが大半であて大人の領域に踏み込んでい

るのは数人だろう。

しかし中には2時まで勉強しているという学生もいる。彼、ネレス・シュバルツも今の今まで律儀に勉

強をされていて現在は軽く体を洗っているところだ。バシャバシャ水を贅沢に使っている。砂漠地域でこん

なことをしたら袋叩きにされるだろう。それ以前にバーネット王国

は水は豊かではないのだがこんなこと

が許されるのは彼が水の魔法使いだからであり自分でほしい分だけ作れるからだ。

「ふう。」

風呂場から出てきた彼はびしょびしょになった金髪を拭きながら服を着終え、そんじょそこらの青色と

は明らかにレベルが違う神秘的な目であたりを見回し新聞を取ったかと思うと見始めた。

「ねえねえ、なに読んでるの。私人間の文字は専門外なの。」

新聞紙を覗き込むように身をのりだす女の子。体が透明なこと以外は不思議なところはない。

だがしかし彼は一心不乱に新聞を読んでいるため聞こえていない。完全にシカトされたと彼女は思ったよ

うで。

「ねえ聞いているの、無視してるの、傷つくんだけど、私が精霊だから？ねえねえ>、へ、く。」

「ん？ああいたのかウンディーネ。」

「さつきからずっといたわよ！！あなたは年頃の女の子がそばにいることが気にならないわけ？」

なにが年頃だ。お前のとしては天文学的な数字だろっとはいわない。彼は地雷はふまないキャラだ。

「あいかわらずだな。そろそろ覚えたらどうだ？まったくどの辺りからだ？」

「あんたが読んでいるところ全部。」

「はあ。まったく……」我がバーネット王国軍またもや勝利。今回の戦いでセシル王国の補給線を

断つことに成功し王都周辺都市の敵軍はすべて王都へ引き上げたようだ。敵には後がないため王都占領な

は時間がかかるようだ。以下略」

「ってどういう意味？」

「我が国が勝利したということだ。もっとも早急に占領してもらわないといろいろまずいことが起るの

だが……」

「え？なんで？時間があるんだからいいじゃん。」

「バーネット王国の食料自給率は壊滅的に低い。つまり長期戦は耐えられない。たいてはセシル王国は

自分の兵力を十分食わしていけるほどのたくわえがある。バーネッ

ト王国がはやくセシルを陥落させない

と周辺諸国が介入してくるかもしれない。」

「ふーん」

っとわかったような顔をしたが…

「つまり人間はいろいろ大変ってことね！（^^）！」

わからなかったようだ。

「ところでこんなおそくまで起きていてもいいの？私なら絶対授業中に爆睡するとおもっただけど？」

「ん？だいじょうぶだ。明日は一土の月（秋）の68日目だ。明日は講義の予定はない。」

「人間ってなんで暦なんてきめるのかしら…？まあいいわ。おやすみなさい。」

「ああ、おやすみ。」

プロローグ（後書き）

私が精霊だから？ねえねえ
彼女は精霊

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8160z/>

水の賢者と風の国

2011年12月25日23時50分発行